

第36期 (2016年6月期)

第2四半期連結業績説明資料

2016年 2月

ドン.キホーテ HLDGS

専務取締役 兼 CFO 高橋 光夫

〒153-0042 東京都目黒区青葉台2-19-10

TEL 03-5725-7588 FAX 03-5725-7024

<http://www.donki-hd.co.jp/>

e-mail : ir@donki.co.jp



2016年6月期2Q 決算概況

- ✓ 決算業績概況
- ✓ 事業別業績概況
- ✓ 主な資産、負債、純資産の状況
- ✓ セグメント情報
- ✓ キャッシュフロー、設備投資の状況
- ✓ 決算レビュー

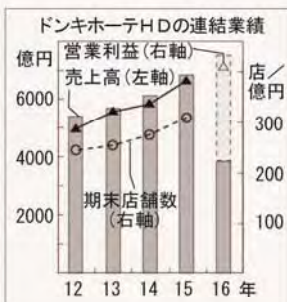
ドン・キホーテグループトピックス

- ✓ 株式の状況
- ✓ 出店状況&ハイライト情報
- ✓ インバウンドの状況
- ✓ 販売動向分析
- ✓ PB商品&majicaの状況
- ✓ 月次販売の状況

2016年6月期 業績予想

- ・本資料における記載金額は、単位未満を四捨五入して表示しております。
- ・本資料中、ドンキホーテHD(7532)は「ドンキホーテHD」または「DQHD」、ドン・キホーテ、または同店舗は「DQ」、アクリーティブ(8423)は「ACR」、日本アセットマーケティング(8922)は「JAM」と表示している箇所があります。
- ・当期末首より「企業結合に関する会計基準」を適用しておりますが、本資料に記載している勘定科目は、意を損ねることがない程度に簡略した表記を使用している箇所があります。

ドンキホーテHD、本業の稼ぐ力で最高益更新



独自性を持った存在感
一進一退を続ける消費環境下においても、ドンキホーテグループの顧客支持率は高い水準で推移している。小売業界の現状は業態の垣根を越えて企業間格差も拡大しているが、同社が持つ独自性はもとより、趣味嗜好品から生活必需品に至るまで、ワンストップで取得に提供できる仕組みは強力な差別化要因になっている。何よりもエンターテイメント感に溢れている存在感は大きな武器だ。

時流対応力に磨きがかかる
7/12月期
ドンキホーテホールディングスは2015年7月5日12月期連結決算を5日に発表した。売上高は前期比12%増の3844億円、営業利益は9%増の256億円、経常利益は7%増の259億円及び純利益は3%増の142億円と、いずれも過去最高実績を更新する増収増益決算となった。
消費税増税商戦は一巡したが、原材料価格の高騰や円安などの影響を受けた販売価格の上昇は、消費者の節約志向や選別消費を確実に進行させている。
厳しい消費環境は、付加価値の高いディスカウント体制を徹底する同社のシェア拡大の追い風になっており、快進撃は続いている。

訪日外国人に対する同社の認知度と利用客数は月を追う毎に高くなっており、様々なアプローチを通じて個人客の取り込みが業績を促進させている。
また、小売業他社の撤退物件も有効に活用できており、成長を加速させる店舗開発も順調だ。

顧客目線で高い支持

主力のドン・キホーテ既存店とMEGA主体の長崎屋既存店はいずれも5・3%成長した。消費環境が激変した消費税増税後の2年間で、変化対応力と現場力の強さを発揮して、両社ともに10%超の高成長を遂げたことになる。

通期業績を上方修正
通期の業績予想を7期連続で上方修正する。売上高は前期比9%増の7500億円とし、従来予想を200億円増額した。営業利益は410億円(同4%増)、経常利益は415億円(同3%増)、純利益は234億円(同1%増)にそれぞれ修正した。
先行き不透明な中で競争激化は避けられないが、商品対応はもちろん、組織・人員体制の整備も進んでおり、万全の態勢でお客さまをお迎えしていく。

【MT記】

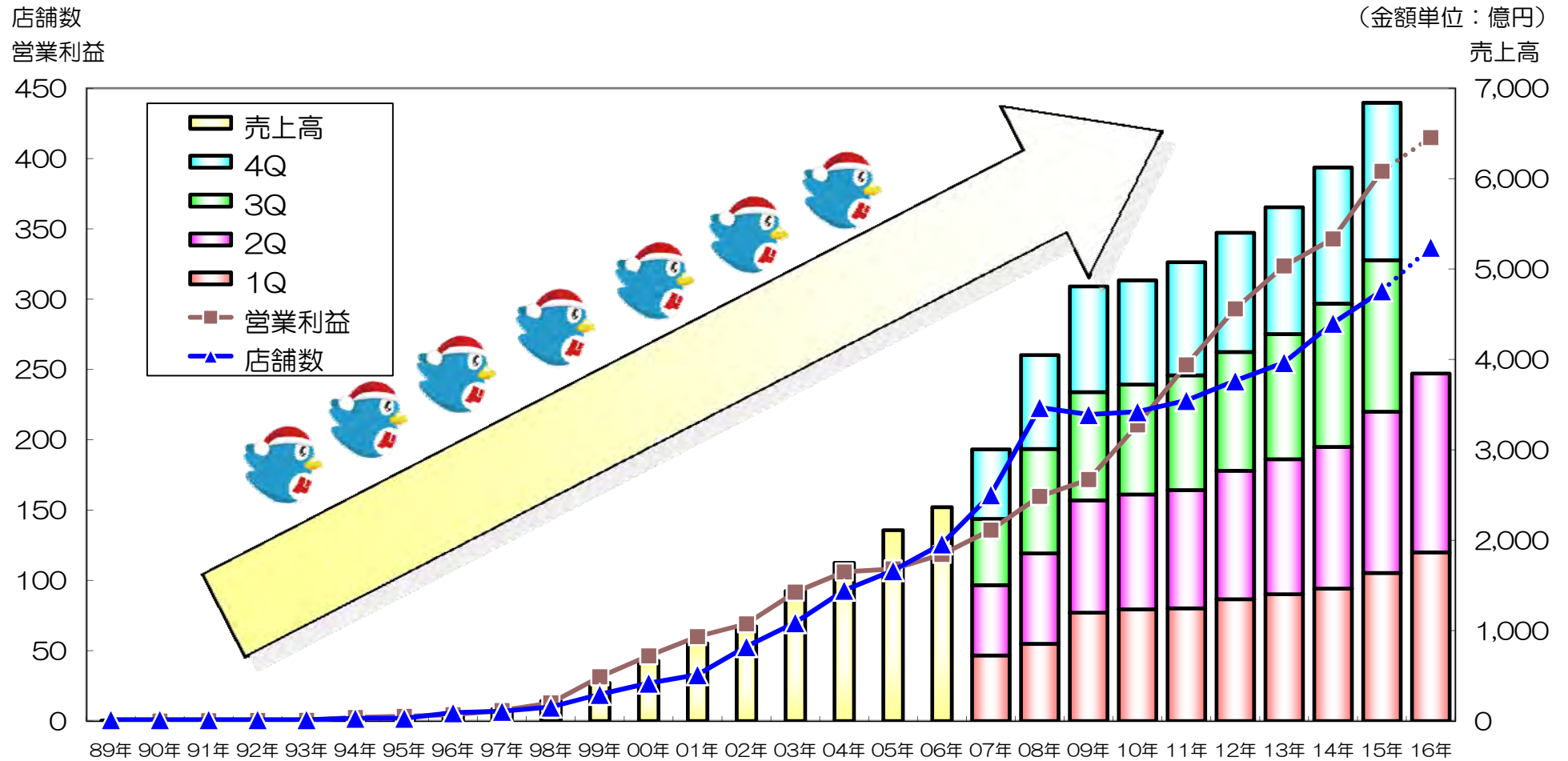
A○B新聞号外

目黒区青葉台2*19+10

1Q89 established

セグメント別では、リテール事業の売上高は3714億円、セグメント利益は154億円だった。
消費税増税が一巡した15年夏季以降、客単価の上昇やインバウンド効果に惑わされることなく、来店されるお客さまが生活防衛型にシフトし、選択消費の傾向が強くなり始めた兆候を見逃さなかった。購買頻度が高い日配品などを中心に地域最安値を提供し、顧客支持を高めた。一方で、ハロウィンなどのイベントについては、積極的な仕掛けを発信して消費をリードすることも忘れない。

年間業績推移



(注) 当社グループは、DQ 1号店を創業開店（1989年3月）して迎えた最初の決算期（1989年6月期）から、直近期（2015年6月期）まで、26期連続増収営業増益を継続しております。なお、連結決算は96年6月期から開始しているため、連結ベースは19期連続となります。

1. 2Q累計連結業績概況

所得環境の改善が遅いインフレ気味の消費環境と天候不順による逆風も受け止めて、着実にシェアアップ。増勢するインバウンド消費を上乗せして増収増益！！

- ▶ 着実に増加する生活防衛型の消費行動に対して、お客さまのニーズや競合先を意識した商品ポートフォリオを構成しながら、価格戦略をきめ細かく実施。一方でウォンツを刺激する季節性イベントの演出と取り込みにも成功。季節商品は天候不順に悩まされたが、増勢するインバウンド消費が下支え。
- ▶ ファミリー層に対する地域内存在感がますます高まる「MEGA」「New MEGA」店が収益を伴いながら順調に成長する一方で、「エキドンキ」「新・驚安堂」「新・ドイト」など、小型新業態のラインロビングを進める。
- ▶ インバウンド消費は、先駆的に実施してきた様々な施策やSNS効果が認知度上昇に寄与し、ご利用客数が右肩上がり推移！消費動向は従来的一般品から消耗品中心に大きくシフトしたことにより、リピート効果が大きい。
- ▶ 新規出店は15店。イニシャルコスト発生を踏まえた上でシェア拡大を進め、さらなるスケールメリットを享受出来る体制を志向。販売力を強化するための人材確保などで販管費は増加するが増収効果で吸収。小売他社のリストラ物件の増加により、出店環境はフォロー。通期は当初予定（25店+ α ）を大幅に上回る35店の出店を見込む。
- ▶ これらのことから、2Q連結累計業績は、売上高3,844億円（前期比12.3%増）、営業利益256億円（同9.2%増）経常利益259億円（同7.6%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益142億円（同3.9%増）といずれも会社予想を上回る増収増益を達成し、2Q累計期間最高実績も更新。

2. 業績見通し

通期業績予想を上方修正！

- ▶ 2Q累計期間連結業績の進捗状況及び新規店舗開発状況を踏まえて通期の業績見通しを上方修正。売上高7,500億円（前期比9.7%増、従来予想7,300億円）、営業利益410億円（同4.9%増、同398億円）、経常利益415億円（同3.3%増、同408億円）及び親会社株主に帰属する当期純利益234億円（同1.1%増、同233億円）にそれぞれ上方修正し、慎重なスタンスを貫きながらも27期連続増収増益を目指す。
- ▶ 下半期については、お客さま心理に沿った販売施策を柔軟かつ迅速に行い顧客満足度の最大化に努め、併せて過去最大規模となる新規出店を積極果敢に行い、シェア拡大に注力。

2Q累計業績サマリー

ドンキホーテ HLDGS

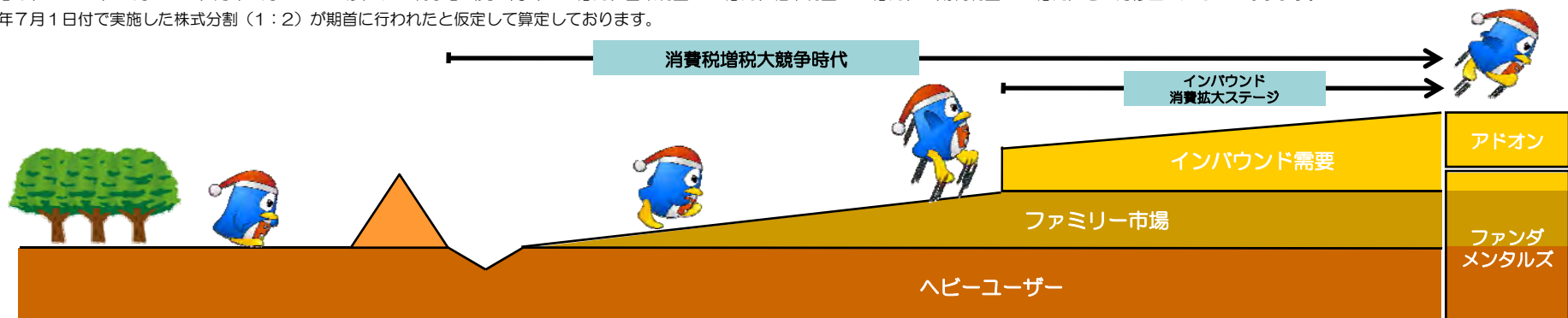
【期間：2015年7月1日～2015年12月31日】

(単位：百万円)

連結実績	当2Q累計実績				公表予想 ※1		前2Q実績	
	金額	百分比	予想比	前期比	金額	百分比	金額	百分比
売上高	384,445	100.0%	100.4%	112.3%	383,000	100.0%	342,224	100.0%
売上総利益	102,941	26.8%	100.1%	112.3%	102,800	26.7%	91,634	26.8%
販管費	77,370	20.1%	98.8%	113.4%	78,300	20.5%	68,223	20.0%
営業利益	25,571	6.7%	104.4%	109.2%	24,500	6.2%	23,411	6.8%
経常利益	25,873	6.7%	103.1%	107.6%	25,100	6.4%	24,044	7.0%
当期純利益	14,232	3.7%	100.2%	103.9%	14,200	3.8%	13,694	4.0%
1株利益	90.05円	100.3%	103.3%		89.81円		※2 87.21円	

※1. 公表予想は、2015年11月5日に、同年8月17日に公表した当初予想（売上高3,680億円、営業利益235億円、経常利益241億円、当期純利益137億円）を上方修正したものであります。

※2. 2015年7月1日付で実施した株式分割（1：2）が期首に行われたと仮定して算定しております。



2Q累計連結業績概況コメント

ドンキホーテ HLDGS

➤ 連結売上高：3,844億円（前期比12.3%増）

消費税増税以降、節約志向が強くなり実質消費支出がマイナスに推移する状況下で、購買頻度が高い生活必需品消費が着実に増加。お客さまの消費動向にお応えした商品構成や価格対応とmajicaで顧客の囲い込みが進む。SNS利用者の認知度とリピート率が高くなってきたインバウンド消費の押し上げ効果も加わったDQ既存店は5.3%増と好調に推移。一方でファミリー層の支持が高いMEGA運営の長崎屋既存店は（インバウンド効果が無くても）5.3%増と絶好調。

➤ 当2Q末店舗数：319店（前2Q末291店、前期末306店）

新規出店15店（DQ3、MEGA1、New MEGA6、ピカソ1、エキドンキ1、驚安堂2、ドイト1）、閉店2店。

➤ 連結売上総利益：1,029億円、同総利益率：26.8%（前期比12.3%増、同0.0pt横バイ）

原材料高騰や円安などによる原価上昇に加えて、食品や日用消耗品など、相対的に在庫回転率が高く低粗利益商品が人気を獲得。さらに季節商品は天候不順により販売苦戦となり、メタボ在庫の処分も積極的に行ったが、商品調達や販売促進を工夫して粗利コントロールしたことから、売上総利益率は前期と同水準で着地。

➤ 連結販管費：774億円、同販管費率：20.1%（前期比13.4%増、同0.1pt低下）

既存店についてはセールスマックスの変化やインバウンド対応に伴う作業工数増加に対して、人員体制の整備を押し進めており、新規出店については初期費用の発生などにより、人件費、減価償却費などが増加したが、販管費は想定内で進捗。

➤ 営業外収支尻：3億円のプラス

受取利息・配当金3.3億円、違約金収入7.0億円/支払利息5.2億円、債権流動化費用3.1億円など。

➤ 特別損益収支尻：9.6億円のマイナス

店舗固定資産除却損0.5億円、閉鎖損失9.2億円など。

➤ これらの結果、営業利益256億円（同9.2%増）、経常利益259億円（同7.6%増）、当期純利益142億円（同3.9%増）といずれも増益を達成し、2Q累計最高益を更新！

2Q累計連結業績概況

ドンキホーテ HLDGS

【期間：2015年7月1日～2015年12月31日】

(単位：百万円)

	当2Q (累計)		前2Q (累計)		前期比
	金額	百分比	金額	百分比	
売上高	384,445	100.0%	342,224	100.0%	112.3%
売上総利益	102,941	26.8%	91,634	26.8%	112.3%
販売管費	77,370	20.1%	68,223	20.0%	113.4%
給与手当	28,920	7.5%	24,332	7.1%	118.9%
地代家賃	10,237	2.7%	9,170	2.7%	111.6%
支払手数料	8,815	2.3%	7,791	2.3%	113.2%
減価償却費	6,149	1.6%	5,370	1.6%	114.5%
その他	23,249	6.0%	21,560	6.3%	107.8%
営業利益	25,571	6.7%	23,411	6.8%	109.2%
経常利益	25,873	6.7%	24,044	7.0%	107.6%
当期純利益	14,232	3.7%	13,694	4.0%	103.9%
1株当たり純利益	90.05円		※1 87.21円		103.3%

※1. 2015年7月1日付で実施した株式分割(1:2)が期首に行われたと仮定して算定しております。

Don Quijote Holdings Co., Ltd. 2Q results of FY2016.

2Q累計事業別業績概況コメント

ドンキホーテ HLDGS

➤ リテール事業 3,714億円（前期比12.4%増）

消費トレンドは足踏みを続けており、天候不順もマイナスに作用したが、ハロウィンなど急拡大する季節イベントを味方につけて客層の裾野を拡大するなど、変化対応力を発揮して乗り切る。

「国内ファミリー」と「インバウンド」顧客のリピー特化が販売増に直結して、前年の高いハードルを超えて力強く成長。

* 「家電製品」312億円（同6.7%増）

スマートフォンアクセサリとPOSAカードが安定して販売を牽引。シェーバーなどの「理美容家電」やヘッドフォンなどの「AV小物」が好調なトレンドを描く。冷蔵庫や洗濯機などの大型「生活家電」も貢献。

* 「日用雑貨品」783億円（同15.5%増）

インバウンド消費の増加が著しく、化粧品や医薬品などが高成長。さらに定番系商品から高付加価値洗剤やマスクなど人気商品のラインナップが拡大。シャンプーや歯ブラシなどの「日用消耗品」は国内消費を中心にシェア拡大。フライパンや包丁などの「台所用品」が堅調に推移。

* 「食品」1,185億円（同16.6%増）

卵や納豆などの「日配品」は価格優位性を発揮。主婦・ファミリー客のリピー特化により、菓子類、ドリンク類、加工食品、保存性食品、調味料を始めとした全ての商品群が高い伸びを記録。MEGA店は精肉を中心とした生鮮食品と惣菜類の拡充により顧客支持率が高まる。

* 「時計・ファッション用品」803億円（同6.0%増）

高額系商品に関してはさえない動きが続いており、記録的な高気温が冬物衣料にマイナス影響を及ぼしたが、高級腕時計を中心としたインバウンド消費の拡大と一部の嗜好品が販売面を支える。キャリーケースやリュックなどのカバン類や、シューズ類の成長率も高い。

* 「スポーツ・レジャー用品」299億円（同16.1%増）

ハロウィンコスチュームなどの季節イベント関連用品が急伸したことに加えて、エクササイズ器具や玩具類が好調に推移。

* 「DIY用品」78億円（同10.1%減）

天候不順を主要因とするエクステリア用品や園芸用品などの不振を、雨具やワークウェアなどがカバー。

* 「海外（アメリカ）」195億円（同21.0%増）

惣菜などのモバイルフーズ及び日配品や生鮮食品の拡充が、ローカルを中心に客層の拡大及びリピー特化を実現。
（ご参考：当2Q 1USD=121.7円、前2Q 1USD=103.6円）

➤ テナント賃貸事業 97億円（同8.5%増）

積極的な新規出店が、商業施設事業及びJAM事業の収益拡大を加速。

2Q累計事業別業績概況

ドンキホーテ HLDGS

【期間：2015年7月1日～2015年12月31日】

(単位：百万円)

	当2Q (累計)		前2Q (累計)		前期比
	金額	構成比	金額	構成比	
リテール事業	371,409	96.6%	330,361	96.6%	112.4%
家電製品	31,213	8.1%	29,256	8.6%	106.7%
日用雑貨品	78,335	20.4%	67,817	19.8%	115.5%
食品	118,451	30.8%	101,604	29.7%	116.6%
時計・ファッション用品	80,290	20.9%	75,766	22.1%	106.0%
スポーツ・レジャー用品	29,899	7.8%	25,745	7.5%	116.1%
DIY用品	7,835	2.0%	8,718	2.6%	89.9%
海外	19,500	5.1%	16,113	4.7%	121.0%
その他商品	5,886	1.5%	5,343	1.6%	110.2%
テナント賃貸事業	9,737	2.5%	8,972	2.6%	108.5%
その他事業	3,299	0.9%	2,892	0.8%	114.1%
合計	384,445	100.0%	342,224	100.0%	112.3%

※1. 「報告セグメント」については、「セグメント情報等の開示に関する会計基準」及び「同 運用指針」を適用し、「リテール事業」と「テナント賃貸事業」としております。

※2. 「季節性イベント関連商品」に係る商品を中心に当期から部門変更しております。なお、前2Q実績については、変更後の区分方法により作成しております。

主な資産の状況

(単位：百万円)

	15年12月	15年6月	増減額
流動資産	212,987	175,981	37,006
現預金	68,685	49,717	18,968
商品	107,451	94,580	12,871
固定資産	347,413	329,685	17,728
建物等	100,250	96,021	4,229
土地	159,933	150,647	9,286
敷金保証金	33,517	32,817	700
資産合計	560,400	505,666	54,734

主な資産の状況

12月末は小売業界の繁忙期のため、6月末に比して資産のうち、現預金・商品などは増加する傾向があります。

- ▶ **総資産：5,604億円**（前期末比547億円増）
 主な増加要因は、現預金190億円増、新規出店及び繁忙期対応のための在庫積み増しに係る商品129億円増並びに加速する出店計画の進捗に応じて獲得した固定資産177億円増など。
- ▶ **現預金：687億円**（同190億円増）
 積極出店等に備えるためにDebt調達を実施し、手持ち残高を増加。
- ▶ **商品：1,075億円**
 （同129億円増、前2Q末比51億円増、5.0%増）
 新規出店数が増加する一方で、既存店はインバウンド需要の増加や年末年始商戦の販売機会ロスを防ぐために、商品在庫を確保。
- ▶ **固定資産：3,474億円**（同177億円増）
 当期中の新規出店15店及び次期以降の出店物件の獲得により、有形固定資産141億円増、投資その他の資産38億円増など。

主な負債&純資産の状況

ドンキホーテ HLDGS

(単位：百万円)

	15年12月	15年6月	増減額
流動負債	184,704	144,576	40,128
買掛金	84,167	60,556	23,611
短期負債 <small>※1</small>	56,893	38,598	18,295
固定負債	140,725	139,723	1,002
社債	56,704	62,690	▲5,986
長期借入金	35,156	25,156	10,000
債権流動化に伴う 長期支払債務	30,463	34,023	▲3,560
負債合計	325,429	284,299	41,130
純資産合計	234,971	221,367	13,604
負債・純資産合計	560,400	505,666	54,734

主な負債・純資産の状況

12月末は小売業界の繁忙期のため、6月末に比して負債のうち、買掛金などは増加する傾向があります。

- ▶ **負債合計：3,254億円** (同411億円増)
 主な増減要因は、買掛金236億円増及び有利子負債223億円増（短期性負債183億円増、長期性負債40億円増）の一方で債権流動化に伴う支払債務35億円減など。
- ▶ **有利子負債：1,488億円**
 (同223億円増、依存率26.5%、うちACR117億円、JAM108億円)
- ▶ **純負債：801億円** (同33億円増)
- ▶ **債権流動化に伴う支払債務：376億円**
 (同35億円減)
 ABL (Asset backed loan) による調達残高
- ▶ **D/Eレシオ：0.63倍**
- ▶ **インタレスト・カバレッジ・レシオ：49.6倍**
- ▶ **純資産：2,350億円**
 (同136億円増、自己資本比率40.0%)

※1. 短期負債＝短期借入金、1年内返済予定の長期借入金、1年内償還予定の社債

2Q累計セグメント情報 (事業別)

ドンキホーテ HLDGS

「リテール事業」のセグメント利益は154億円、
「テナント賃貸事業」は71億円、「その他の事業」は33億円といずれも増収増益！

当2Qセグメント概要 ※1

(単位：百万円)

	リテール事業	テナント賃貸事業	その他事業	計	調整	連結
外部売上高	371,409	9,737	3,299	384,445	—	384,445
内部取引等	7	8,762	3,747	12,516	▲12,516	—
計	371,416	18,499	7,046	396,961	▲12,516	384,445
セグメント利益	15,393	7,129	3,266	25,788	▲217	25,571

前2Qセグメント概要 ※1

(単位：百万円)

	リテール事業	テナント賃貸事業	その他事業	計	調整	連結
外部売上高	330,361	8,972	2,891	342,224	—	342,224
内部取引等	—	7,373	2,959	10,332	▲10,332	—
計	330,361	16,345	5,850	352,556	▲10,332	342,224
セグメント利益	14,954	6,041	2,604	23,599	▲188	23,411

※1. 「報告セグメント」については、「セグメント情報等の開示に関する会計基準」及び「同 運用指針」を適用し、「リテール事業」と「テナント賃貸事業」としております。

2Q累計セグメント情報 (法人別)

ドン・キホーテ HLDGS

リテール事業各社「ドン・キホーテ」「長崎屋」「ドイツ」「海外」は、
いずれも好調な業績推移で、収益力を拡大。

当2Q法人別セグメント概要

(単位：百万円)

	ドン・キホーテ ^{※1}	ドイツ	長崎屋 ^{※2}	海外 ^{※3}	その他	消去/全社	連結
売上高	270,793	8,291	79,453	19,939	38,200	▲32,231	384,445
営業利益	14,545	452	2,405	819	13,713	▲6,363	25,571
総資産	205,606	22,049	79,924	22,070	695,541	▲464,790	560,400
純資産	104,167	18,752	45,060	15,980	331,853	▲280,841	234,971

前2Q法人別セグメント概要

為替
レート
PL/1USD = ¥121.7
BS/1USD = ¥120.3

(単位：百万円)

	ドン・キホーテ ^{※1}	ドイツ	長崎屋 ^{※2}	海外 ^{※3}	その他	消去/全社	連結
売上高	237,703	9,171	77,149	16,481	25,118	▲23,398	342,224
営業利益	14,010	333	2,215	672	9,843	▲3,662	23,411
総資産	181,346	22,205	75,877	17,260	439,696	▲246,918	489,466
純資産	93,936	18,489	42,736	13,532	140,594	▲101,005	208,282

※1. 当社は前々期中に純粋持株会社体制となったため、当該対象会社のDQHD及びDQを前期まで単純合計して記載しておりましたが、当期から小売事業会社DQのみを記載しております。

※2. 長崎屋は、リテール（小売）事業のみの業績であります。

※3. 海外は、DQ USA及びMarukaiの2社を単純合計して記載しております。

Don Quijote Holdings Co., Ltd. 2Q results of FY2016.

為替
レート
PL/1USD = ¥103.6
BS/1USD = ¥109.5

キャッシュフロー&設備投資の状況

ドン・キホーテ HLDGS

(単位：百万円)

1.キャッシュフローの状況	当2Q	前2Q	増減額
期首残高	51,292	44,105	7,187
営業活動CF	33,605	23,651	9,954
投資活動CF	▲26,443	▲29,558	3,115
財務活動CF	15,902	5,248	10,654
期中増減等	22,826	▲204	22,622
期末残高	74,118	43,901	30,217
営業活動CF+投資活動CF	7,162	▲5,907	13,069

キャッシュフロー
<p><営業CF></p> <p>▶税金等調整前純利益249億円、減価償却費71億円及び仕入債務の増加236億円などが増加要因となる一方で、たな卸資産の増加129億円及び法人税等支払額102億円などが減少要因となり、336億円がキャッシュイン</p>
<p><投資CF></p> <p>▶出店に伴う有形固定資産の取得217億円及び敷金・保証金の差入れ11億円などで、264億円がキャッシュアウト</p>
<p><財務CF></p> <p>▶長短借入金純増額208億円及び社債純増額15億円などが増加要因の一方で、債権流動化の返済38億円及び配当金支払24億円などが減少要因となり、159億円がキャッシュイン</p>

2.設備投資の状況

設備投資額	23,836	27,230	▲3,394
キャッシュフロー ^{※1}	19,314	17,940	1,374
差引	▲4,522	▲9,290	4,768

設備投資
<p>▶設備投資は238億円（DQ85億円、長崎屋9億円、ドイト5億円、JAM103億円など：敷金保証金回収などを考慮した純増加額は235億円）、キャッシュフローは193億円獲得したが、積極的な再投資によりフリーキャッシュフローは▲45億円。</p>

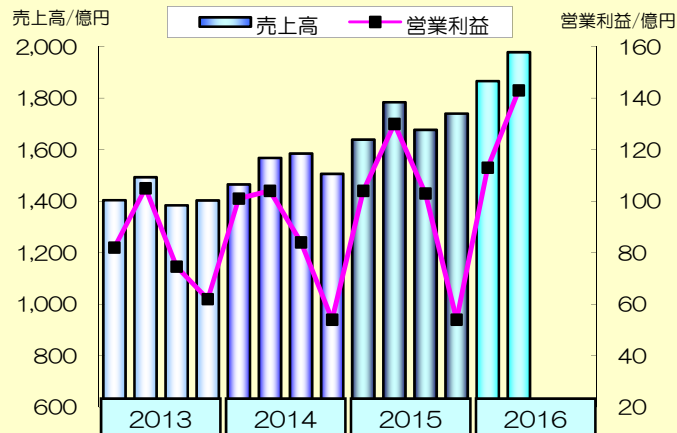
※1. キャッシュフロー＝純利益＋減価償却費＋特別損失－配当金

四半期業績推移 & 時価総額ランキング

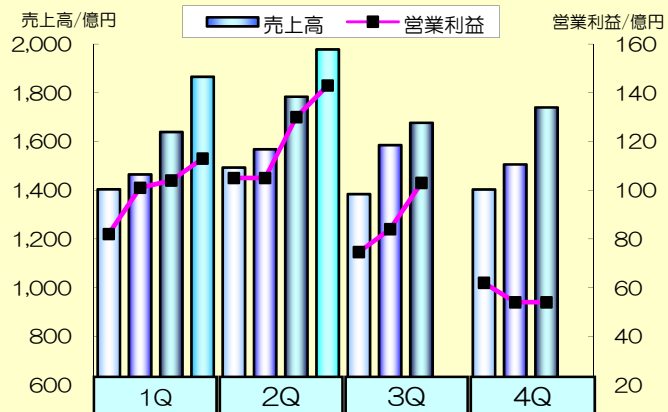
ドンキホーテ HLDGS

四半期業績推移

四半期業績推移の状況 (A)



四半期業績推移の状況 (B)



◆ 小売業時価総額ランキング

時価総額・株価の状況

東証1部：2016年1月29日終値

(単位：億円)

順位	名称	時価総額
1	セブン&アイ・ホールディングス	47,088
2	ファーストリテイリング	40,764
3	イオン	13,925
4	ニトリホールディングス	11,044
5	ローソン	9,468
6	良品計画	7,109
7	ドンキホーテホールディングス	6,364
8	三越伊勢丹ホールディングス	5,977
9	ヤマダ電機	5,615
10	ファミリーマート	5,470
11	サンドラッグ	5,299
12	エービーシー・マート	5,277
13	丸井グループ	5,272
14	しまむら	4,924
15	ツルハホールディングス	4,821
16	J.フロント リテイリング	4,411
17	スギホールディングス	3,920
18	イズミ	3,663
19	高島屋	3,633
20	コスモス薬品	3,618

◆ 株価の推移



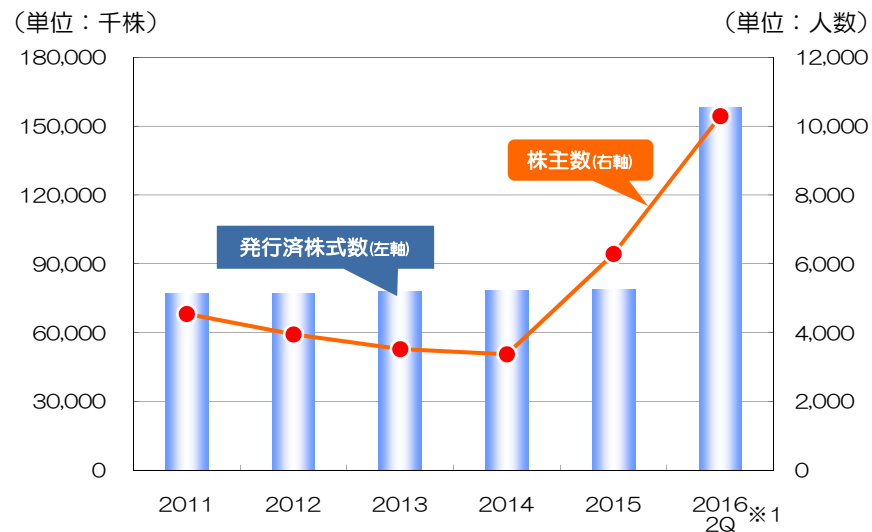
株式の状況

◆所有者別構成比推移

		前々期末		前期末		当2Q※1	
期末株主数		3,369人		6,285人		10,291人	
発行済株式数合計		78,394	100.0%	78,959	100.0%	158,118	100.0%
所有者別	金融機関	13,703	17.5%	11,654	14.7%	21,480	13.6%
	金融商品取引業者	614	0.8%	1,093	1.4%	2,548	1.6%
	その他の法人	6,037	7.7%	6,052	7.7%	12,094	7.6%
	外国人	49,012	62.5%	58,427	74.0%	117,720	74.5%
	個人その他	9,027	11.5%	1,733	2.2%	4,275	2.7%

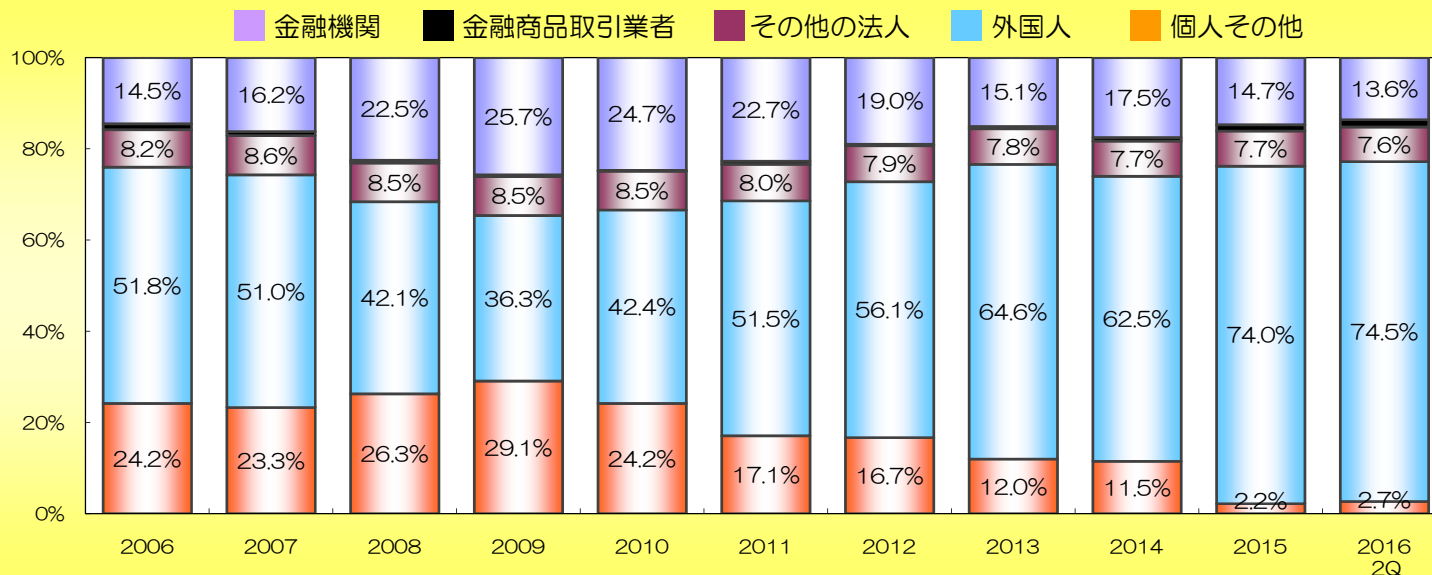
(注) 1. 期末株主数は、10,291人（前期末比4,006人増、中間期末比6,997人増）となっております。
 2. 外国人持株比率は74.5%となっております。
 3. 自己株式（4,633株）は、個人その他に含んでおります。

※1. 2015年7月1日付で1株を2株に分割する株式分割を行っております。



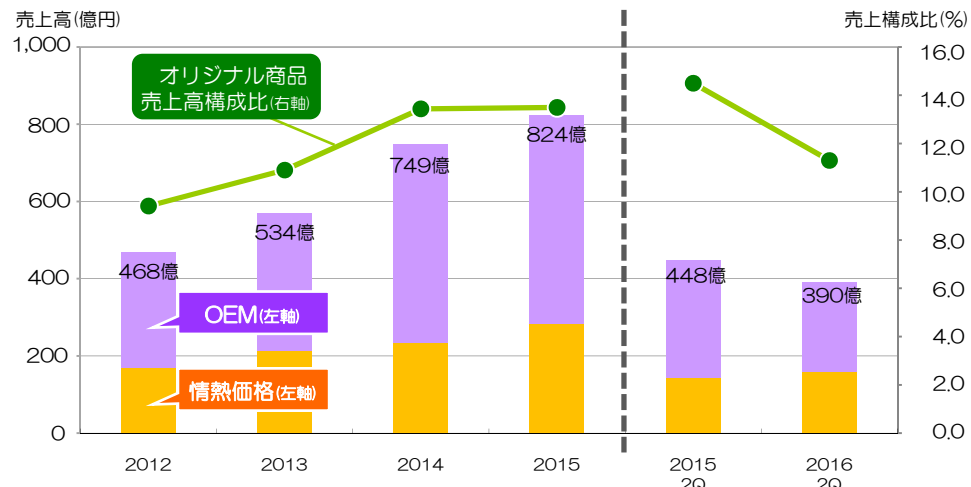
※1. 2015年7月1日付で1株を2株に分割する株式分割を行っております。

◆所有者別持株構成比推移

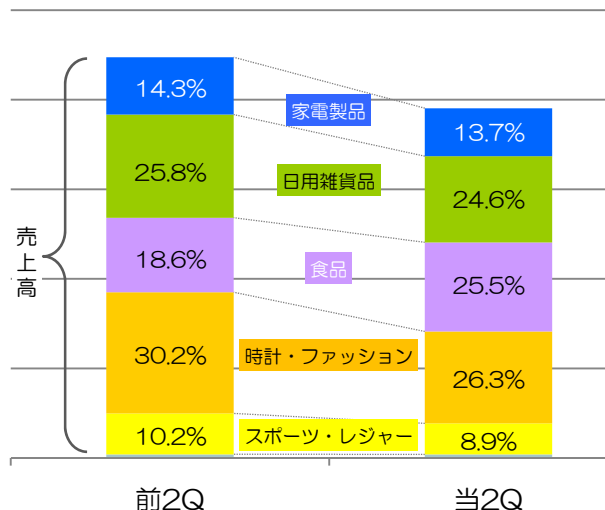


PB商品・majicaの状況

◆ オリジナル商品 実績推移



◆ オリジナル商品 商品部門別売上構成比



PBは「量」から「質」の開発へシフト

<Hot Topic>

新生「情熱価格ブランド」誕生！

2009年より展開中の「お得感」を重視した「情熱価格」に「付加価値」や「プレミアム感」を加えた2ブランドが2016年春より本格始動！

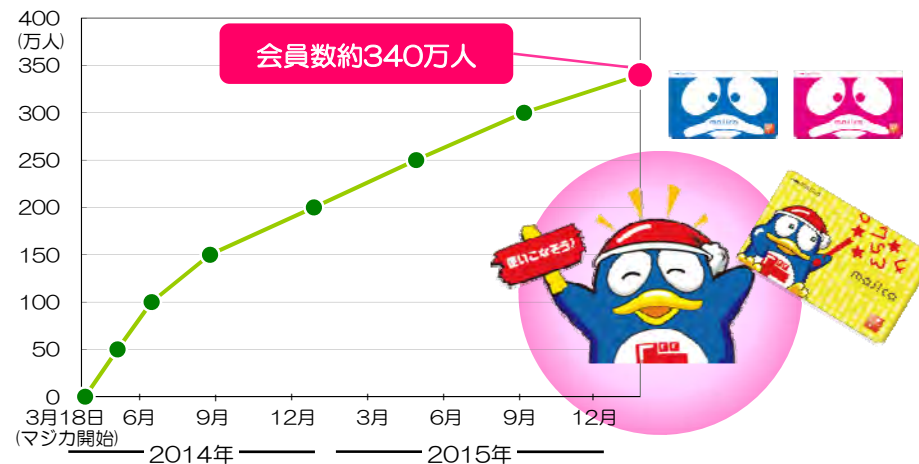


「情熱価格 PREMIUM」
オンリーワンの品質・機能・デザインにこだわった情熱価格の最上級ブランド



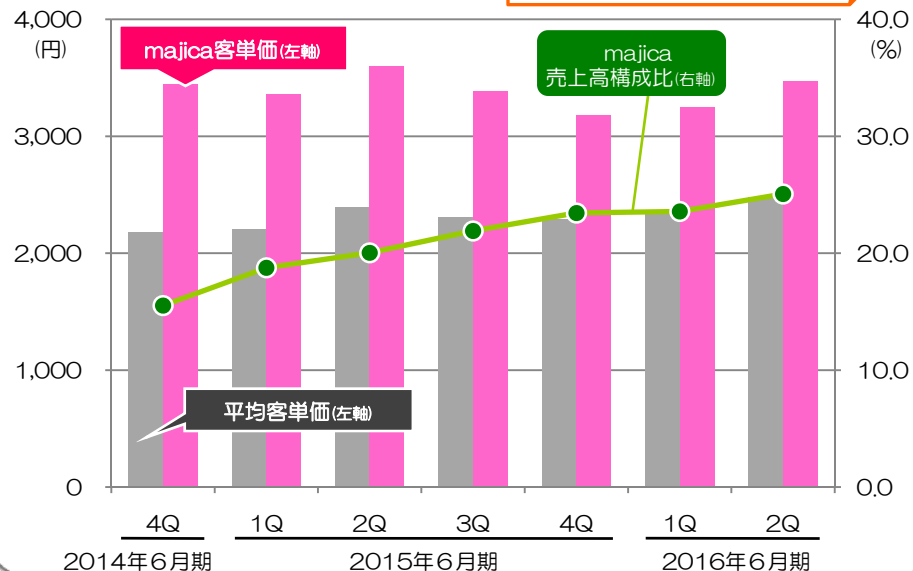
「情熱価格+PLUS」
ワンランク上の「プチ便利・プチハッピー」を提供する付加価値ブランド

◆ majica会員数の推移



◆ majica売上高構成比と客単価

会員数増加に伴いサービス充実へ客単価も高く売上シェアは25%



当期出店状況

ドン・キホーテ HLDGS

フォーマット別店舗数

	2014年	2015年	2016年6月期	
	6月期	6月期	1Q	2Q
ドン・キホーテ ^{※1}	174	183	182	184
ピカソ ^{※2}	15	18	20	21
M E G A ^{※3}	37	36	36	37
New M E G A	28	41	45	48
海外（アメリカ）	14	14	14	14
ド イ ト	12	12	12	13
長 崎 屋	3	2	2	2

法人別店舗数

ドン・キホーテ	217	242	245	250
長 崎 屋	40	38	38	39
ド イ ト	12	12	12	13
ライラック	-	-	2	3
国内合計	269	292	297	305
D Q U S A	3	3	3	3
M A R U K A I	11	11	11	11
海外合計	14	14	14	14
合計	283	306	311	319

- ※1. 「ドン・キホーテ」には、「ドン・キホーテ」及び「パウ」が含まれております。
- ※2. 「ピカソ」には、「ピカソ」「エッセンス」「驚安堂」及び「エキドンキ」が含まれております。
- ※3. (株)長崎屋が運営する業態転換店は、すべて「MEGA」に含まれております。
- ※4. 賃貸期間の終了及び事業の見直しにより2店を閉鎖しております。
- ※5. 上記の他に、2店が改装のため休業しております。

10月 エキドンキ エキマルシェ大阪



12月 MEGAドン・キホーテ 仙台富谷店



12月 MEGAドン・キホーテ 出雲店



11月 MEGAドン・キホーテ 神栖店



12月 ドン・キホーテ 八千代店



12月 ドン・キホーテ 静岡山崎店



12月 MEGAドン・キホーテ 綾瀬店



11月 驚安堂 埼玉松伏店



12月 ドイト ウィズ リ・ホーム 新宿下落合店



当期ハイライト

消費者心理の変化と購買動向を的確にとらえた営業力を柔軟に行使したことにより「真水消費」を獲得。
 インバウンド消費は個人客をリピート化させて裾野を広げる。
 新規出店は2Q累計期間で15店。通期の新規出店は35店に上方修正。

		1 Q			2 Q			3 Q			4 Q		
		7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月			
DQ	DQ			新宿 明治通り			八千代 静岡山崎			岡山駅前			
	MEGA	✓ 箕面 和歌山 次郎丸		桜井		神栖	出雲 仙台富谷		立川				
	ピカソ エキドンキ		横須賀 中央		エキマルシェ 大阪								
	業態 転換	名古屋 本店											
長崎屋						綾瀬							
ライラック			福生		埼玉松伏								
ドイト						新宿下落合							
MARUKAI (業態転換)	Tokyo Central Pacific Tokyo Central San Diego												

- 新経営体制 始動
- インバウンド向け「熱中症予防キャンペーン」実施
- 「驚安堂」新モデル店 オープン
- majica会員 300万人 突破
- エキナカ 初出店 (大阪駅)
- グループ国内 300店突破
- 島根県 初出店
- GMS再生 モデル店 オープン

= DQ
 = MEGA
 = ドイト
 = ピカソ
 エキドンキ
 = 驚安堂
 = 業態転換

* = ソリューション出店
 ✓ = (スクラップ) & ビルド店

2Q連結業績概況

ドンキホーテ HLDGS

【2015年10月1日～12月31日】

(単位：百万円)

	当2Q		前2Q		前期比
	金額	百分比	金額	百分比	
売上高	197,803	100.0%	178,363	100.0%	110.9%
売上総利益	53,263	26.9%	47,399	26.6%	112.4%
販管費	38,988	19.7%	34,444	19.3%	113.2%
給与手当	14,764	7.4%	12,352	6.9%	119.5%
地代家賃	5,084	2.6%	4,626	2.6%	109.9%
支払手数料	4,562	2.3%	4,130	2.3%	110.5%
減価償却費	3,171	1.6%	2,762	1.6%	114.8%
その他	11,407	5.8%	10,574	5.9%	107.9%
営業利益	14,275	7.2%	12,955	7.3%	110.2%
経常利益	14,296	7.2%	13,222	7.4%	108.1%
当期純利益	7,751	3.9%	7,553	4.2%	102.6%
1株当たり純利益	49.03円		※1 48.06円		102.0%

※1 2015年7月1日付で実施した株式分割（1：2）が期首に行われたと仮定して算定しております。

Don Quijote Holdings Co., Ltd. 2Q results of FY2016.

2Q事業別業績概況

ドンキホーテ HLDGS

【2015年10月1日～12月31日】

(単位：百万円)

	当2Q		前2Q		前期比
	金額	構成比	金額	構成比	
リテール事業	191,076	96.6%	172,362	96.7%	110.9%
家電製品	16,654	8.4%	16,386	9.2%	101.6%
日用雑貨品	39,658	20.0%	33,914	19.0%	116.9%
食品	61,652	31.2%	52,829	29.6%	116.7%
時計・ファッション用品	41,415	20.9%	39,545	22.2%	104.7%
スポーツ・レジャー用品	15,209	7.7%	14,537	8.2%	104.6%
DIY用品	3,705	1.9%	4,091	2.3%	90.6%
海外	9,827	5.0%	8,252	4.6%	119.1%
その他商品	2,956	1.5%	2,808	1.6%	105.3%
テナント賃貸事業	5,018	2.5%	4,523	2.5%	110.9%
その他事業	1,709	0.9%	1,478	0.8%	115.7%
合計	197,803	100.0%	178,363	100.0%	110.9%

※1. 「報告セグメント」については、「セグメント情報等の開示に関する会計基準」及び「同 運用指針」を適用し、「リテール事業」と「テナント賃貸事業」としております。

※2. 「季節性イベント関連商品」に係る商品を中心に当期から部門変更しております。なお、前2Q実績については、変更後の区分方法により作成しております。

2Qサマリー

異例の高気温が、衣料品などの冬物商品の販売にマイナス影響を及ぼした一方で、急増した「インバウンド消費」と「生活必需品需要」が十分カバー。

<イベントを取り込んだ10月>

既存店売上高：6.8%増 客数：2.8%増 客単価：3.9%増

😊 ● 秋晴れの穏やかな天候続く

😊 ● 免税売上高構成比6%台に突入

😊 ● ハロウィン関連用品 急伸



<天候不順に泣かされた11月>

既存店売上高：2.4%増 客数：1.8%減 客単価：4.3%増

😞 ● 高気温で冬物スロースタート

😞 ● 週末の雨天が客数に影響

😊 ● 商況の変化に柔軟に対応

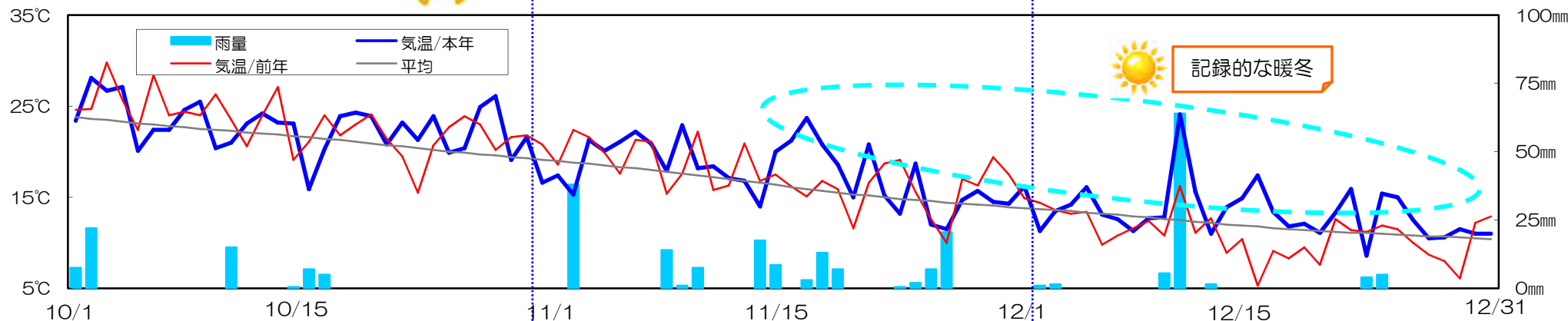
<暖冬を越えて追い込む12月>

既存店売上高：2.5%増 客数：±0% 客単価：2.6%増

😞 ● 高温多雨の天候続く

😊 ● インバウンド消費加速

😊 ● 有終の年末商戦



<主な出来事>

今年

✓ 中国国慶節（10月1日～7日）

<出店数>
1

✓ 日本郵政グループが東証一部上場（11月4日）
✓ 大阪府知事・市長ダブル選挙投開票（11月22日）

<出店数>
2

✓ 東日本で12月として観測史上最も高い気温を記録
✓ 2015年の訪日入国者数1,974万人

<出店数>
6

昨年

✓ 免税対象商品拡大（10月1日～）
✓ 中国国慶節（10月1日～7日）

<出店数>
3

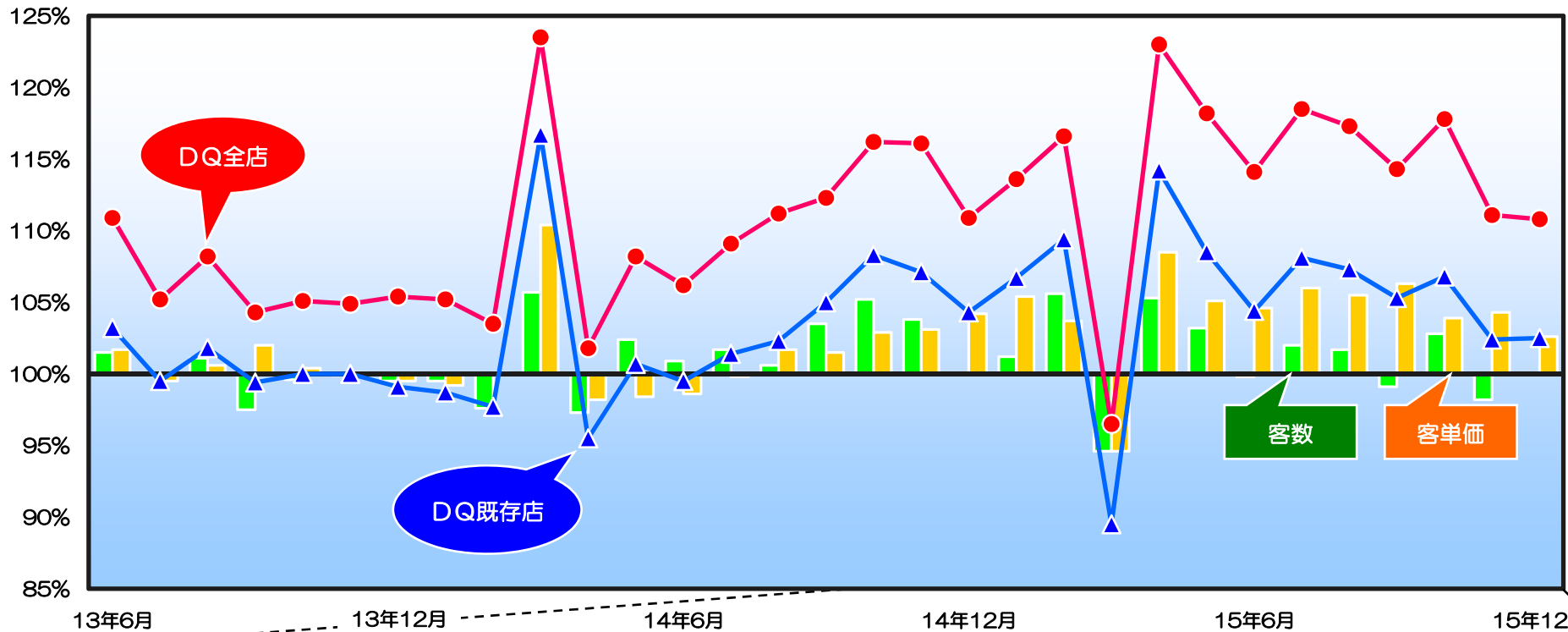
✓ 日経平均株価終値 7年1ヵ月ぶりに1万7,000円台を回復

<出店数>
3

✓ 2014年の訪日入国者数1,341万人

<出店数>
3

DQ月次販売高の状況



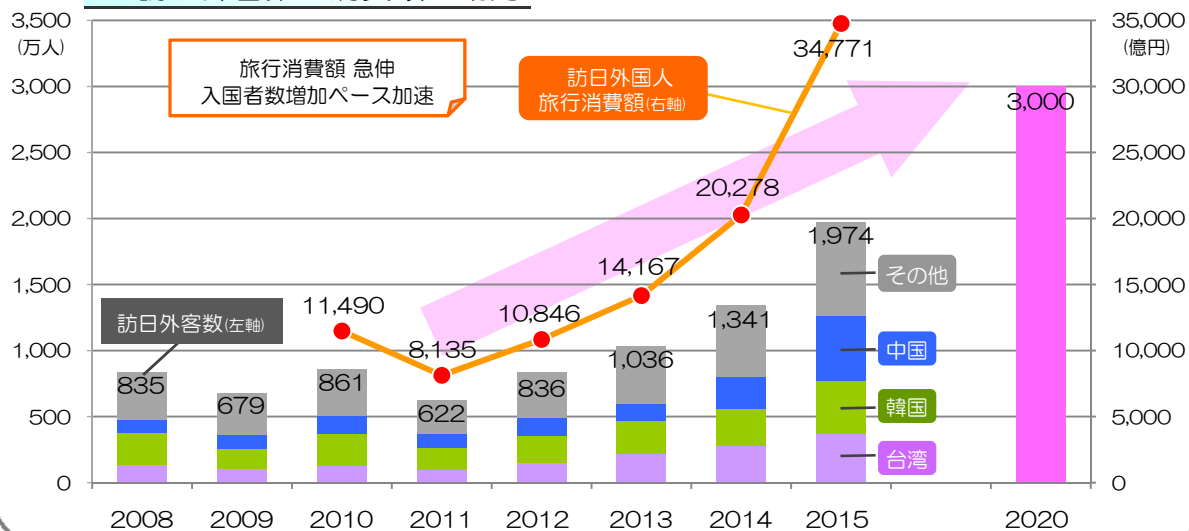
既存店	14年10月	11月	12月	15年1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
売上高	108.3%	107.1%	104.3%	106.7%	109.4%	89.5%	114.2%	108.5%	104.4%	108.1%	107.3%	105.3%	106.8%	102.4%	102.5%
・客数	105.2%	103.8%	100.0%	101.2%	105.6%	94.6%	105.3%	103.2%	99.8%	102.0%	101.7%	99.1%	102.8%	98.2%	100.0%
・客単価	102.9%	103.1%	104.2%	105.4%	103.7%	94.6%	108.5%	105.1%	104.6%	106.0%	105.5%	106.3%	103.9%	104.3%	102.6%
対象店舗数	195店	196店	200店	203店	204店	205店	205店	207店	208店	207店	209店	212店	214店	216店	218店
土日休日数	±0日	+2日	-1日	+1日	±0日	-2日	±0日	+2日	-1日	±0日	±0日	+1日	+1日	-1日	±0日

商品価格が上昇する一方で、消費支出を抑制するお客さまの行動心理を捉えた営業施策が奏功。
 インバウンド消費のアドオン効果と併せて
 DQ既存店伸長率は5.3%増（客数0.7%増、客単価4.6%増）と好調！

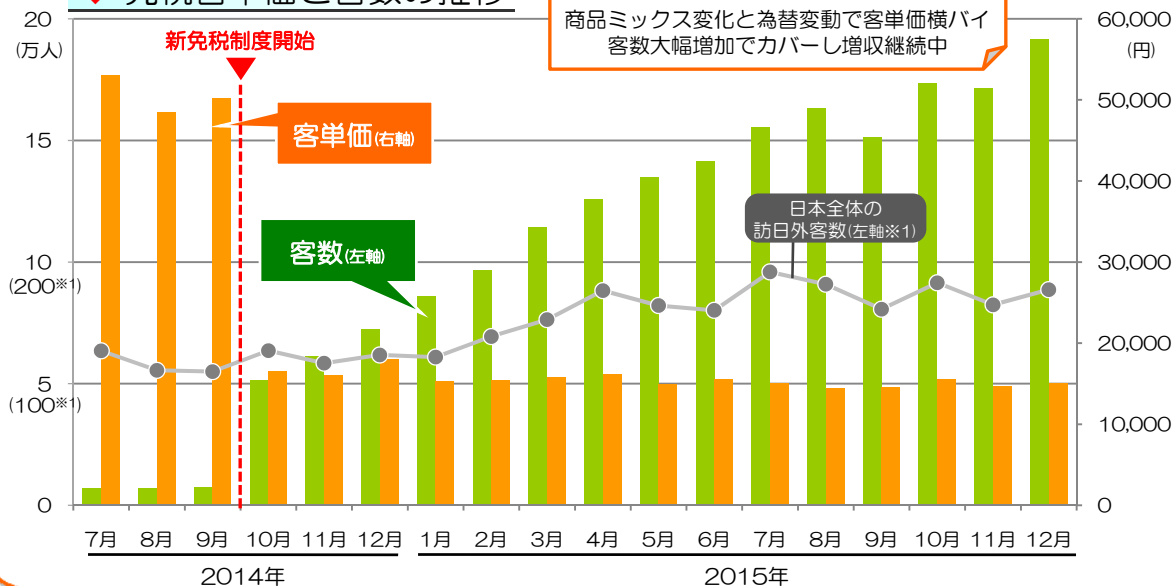
インバウンドの状況

日本のインバウンド状況

訪日外客数と消費額の動向



免税客単価と客数の推移



免税売上高構成比 上位10店

順位	店舗名	免税構成比
1	道頓堀御堂筋店 (大阪)	56.6%
2	道頓堀店 (大阪)	47.2%
3	国際通り店 (沖縄)	42.2%
4	銀座本館 (東京)	36.7%
5	新宿東口店 (東京)	30.6%
6	中洲店 (福岡)	29.7%
7	札幌店 (北海道)	26.8%
8	梅田本店 (大阪)	24.6%
9	名古屋栄店 (愛知)	23.6%
10	上野店 (東京)	22.0%
全店		5.2%

過去3年以内にオープンした店舗

対象データ：
(株)ドン・キホーテ (2015年1月1日～2015年12月31日)

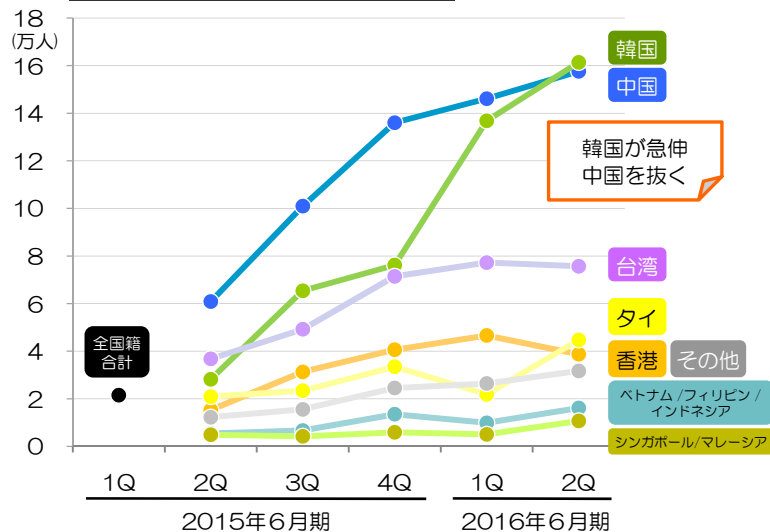


DQデータ

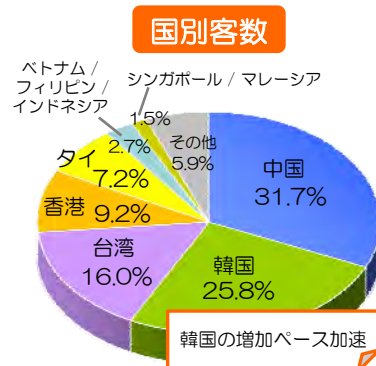
インバウンドの状況

DQデータ

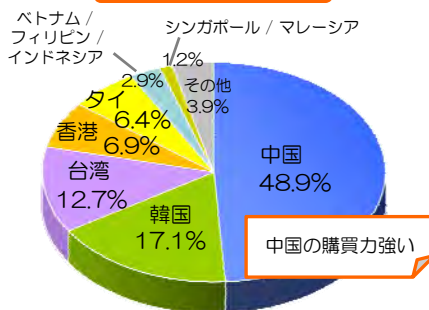
◆ 訪日外国人客数の推移



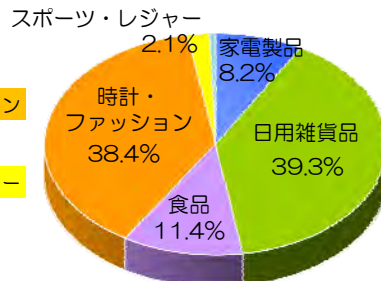
◆ 免税構成比



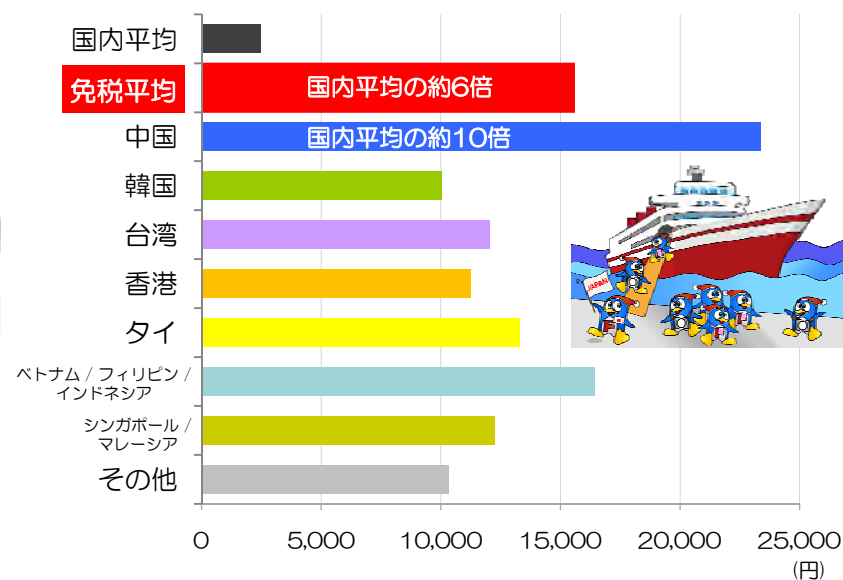
◆ 国別免税売上高



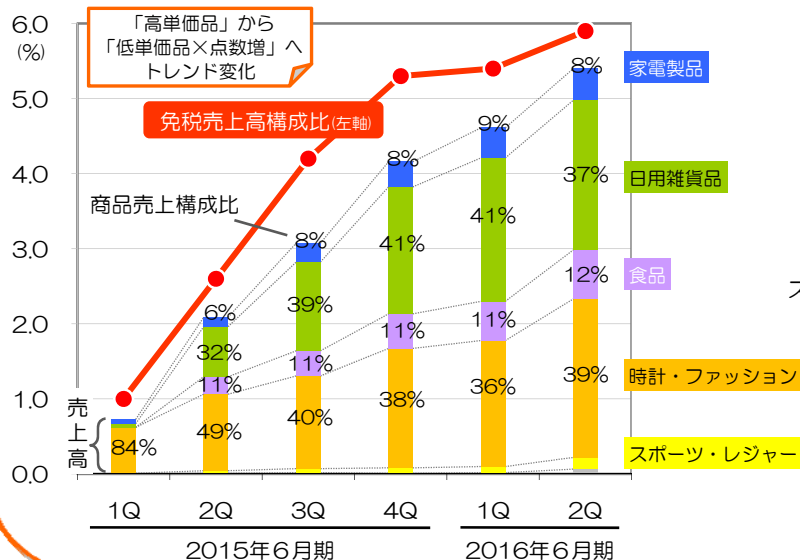
◆ 商品別免税売上高



◆ 免税客単価



◆ 商品別免税売上高の推移



春節プロモーション

(2月7日~13日の7日間)

- ✓ブランド品セール (11店舗)
- ✓福袋 888万円超豪華セット
88万円ブランド時計セット
6万円長寿セット
3万円美容家電セット
- ✓アリペイ決済サービス (5店舗)
- ✓ショッピングキャンペーン (札幌/名古屋/横浜/新宿)



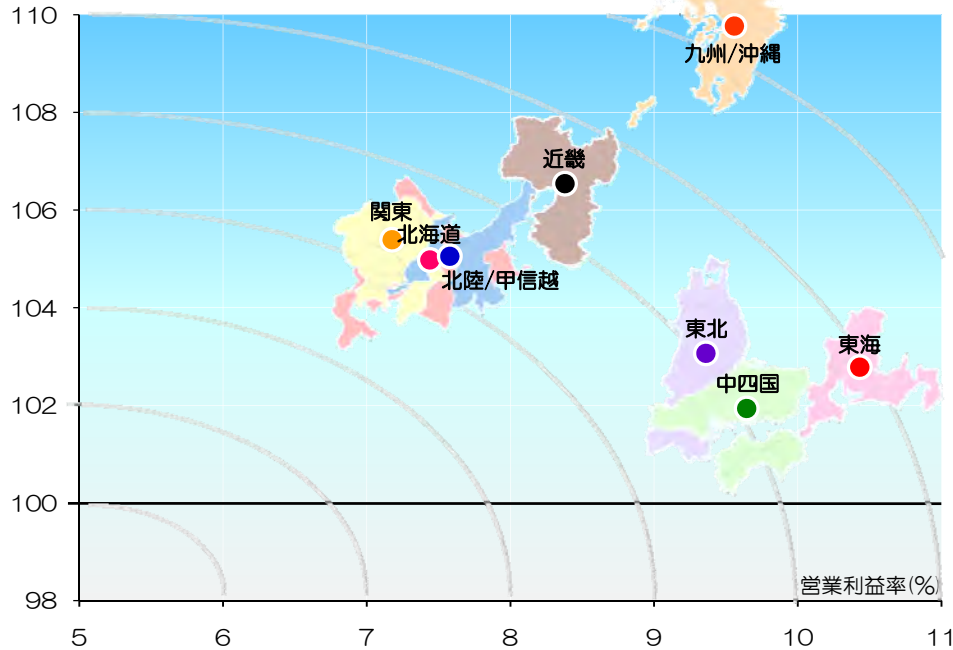
対象データ：(株)ドン・キホーテ (2015年1月1日~2015年12月31日)

2Q累計レビュー：販売動向分析

既存店成長率と営業利益率(店舗段階)

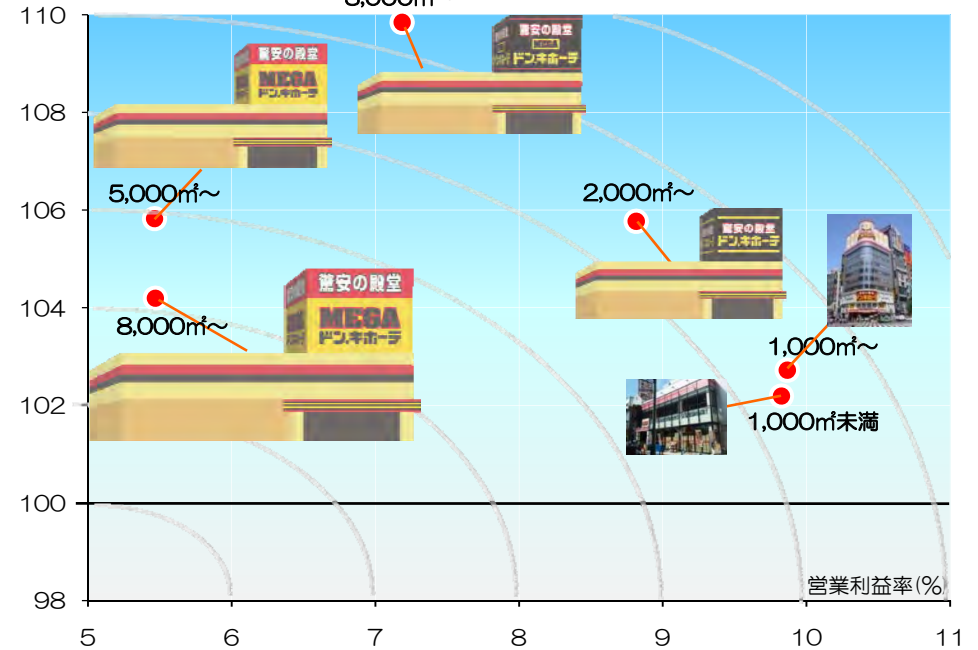
◆ 地域別

既存店成長率(%)



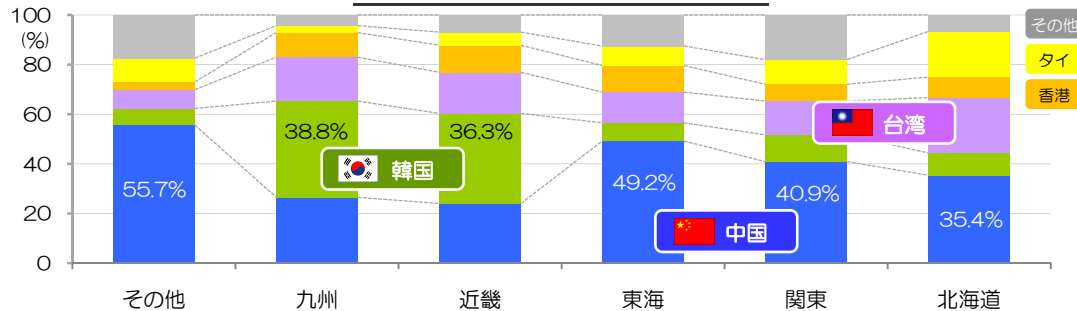
◆ 売場面積別

既存店成長率(%)



対象データ：(株)ドン・キホーテ及び(株)長崎屋の既存店(2015年7月1日～2015年12月31日)

地域別国別免税客数構成比

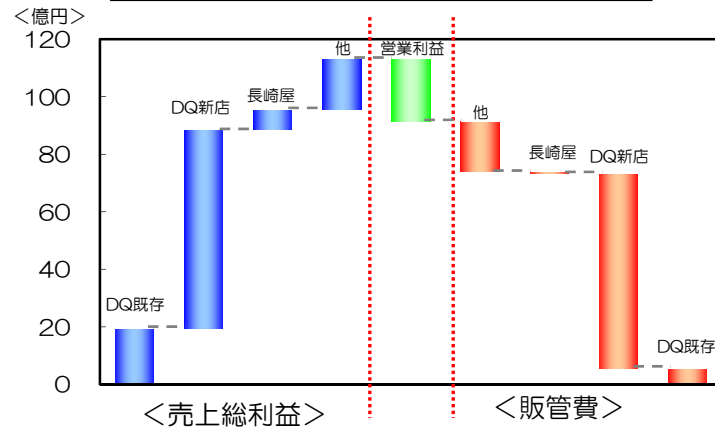


対象データ：(株)ドン・キホーテ(2015年1月1日～2015年12月31日)

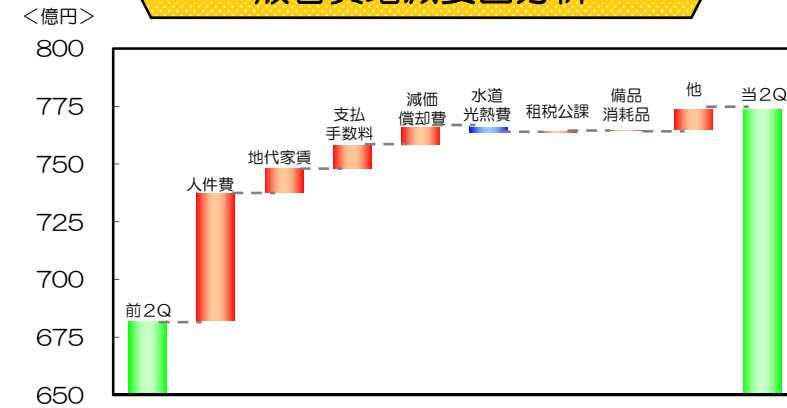
- ✓ 顧客&業態開発の挑戦と失敗を微修正で収益化
- ✓ 高成長を続ける地方展開は収益力も伴う宝の山
- ✓ 小型店から大型店まで全方位で競争優位性発揮

2Q累計レビュー：収益構造分析

営業増益要因分析

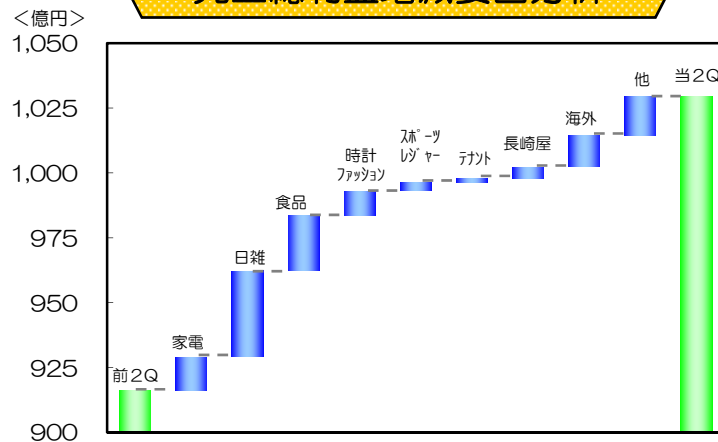


販管費増減要因分析

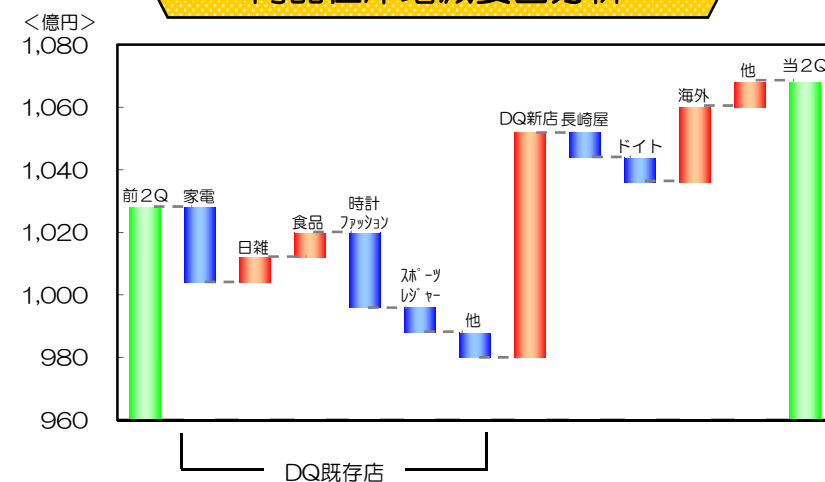


- ✓ ファミリーとリピート客獲得によりファンダメンタルズ押し上げ
- ✓ 好調な必需品消費及びインバウンド対応による人件費増加を吸収
- ✓ 新店及び暖冬に伴う季節商品の在庫負荷は好調な販売で処分促進

売上総利益増減要因分析

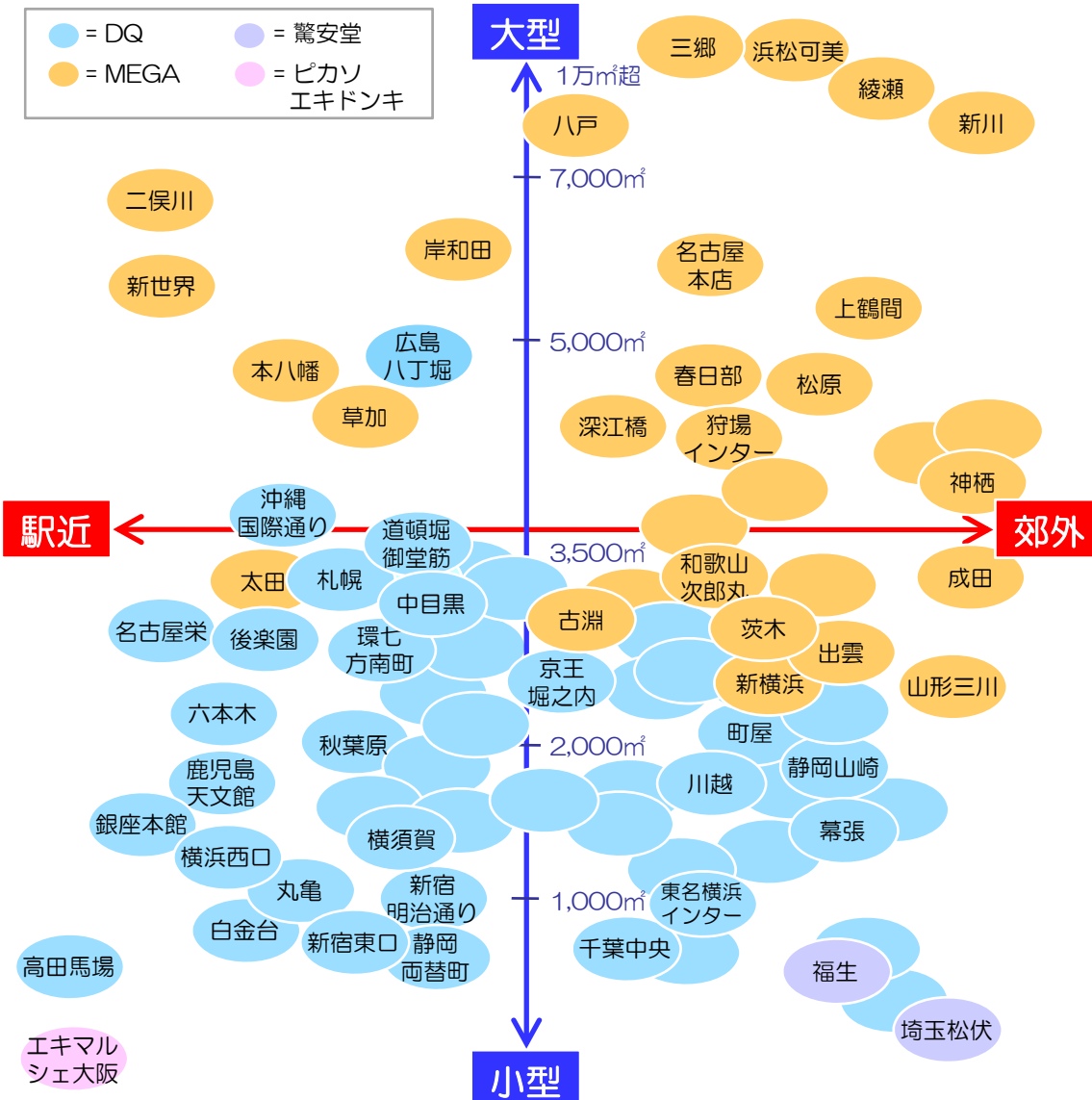


商品在庫増減要因分析



加速する店舗開発

◆ タイプ別 店舗マップ



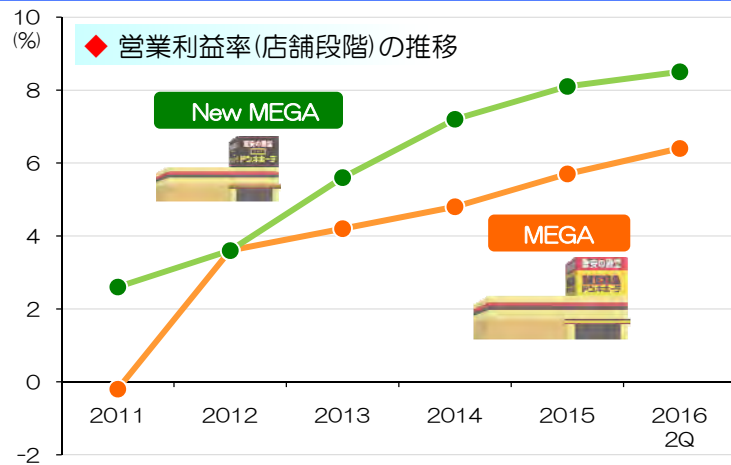
◆ 居抜き タイプ別一覧表

Before	Don Quijote Group					
総合スーパー (GMS)	新川	綾瀬	本八幡	二俣川	三郷	浜松可美
	小樽	苫小牧	八王子	八戸	金沢	岸和田
家電量販店	神栖	出雲	札幌	茨木	松原	和歌山次郎丸
	山形三川	広島八丁堀	日吉	千葉中央	東名横浜インター	秋葉原
家具・ホームセンター	狩場インター	草加	岡崎	春日部	紀の川	名古屋本店
	東松山	新横浜	上越	岐阜瑞穂	川越	仙台富谷
アミューズメント	春日井	新世界	浜松三方原	多摩瑞穂	神戸西	盛岡
商業施設	西条	龍ヶ崎	沖縄国際通り	大宮東口	前橋	下関
食品スーパー	白金台	銀座本館	町屋	橋本	北上尾	静岡山崎
スポーツ・カー用品店	中目黒	幕張	戸塚	練馬	道頓堀御堂筋	鹿児島宇宿
衣料品・雑貨店	吉祥寺	新宿明治通り	埼玉松伏			
銀行	新宿東口	高田馬場	静岡両替町	竹ノ塚	十三	三宮
パチンコ店	横須賀	豊中	守口	小岩	赤坂	桜上水

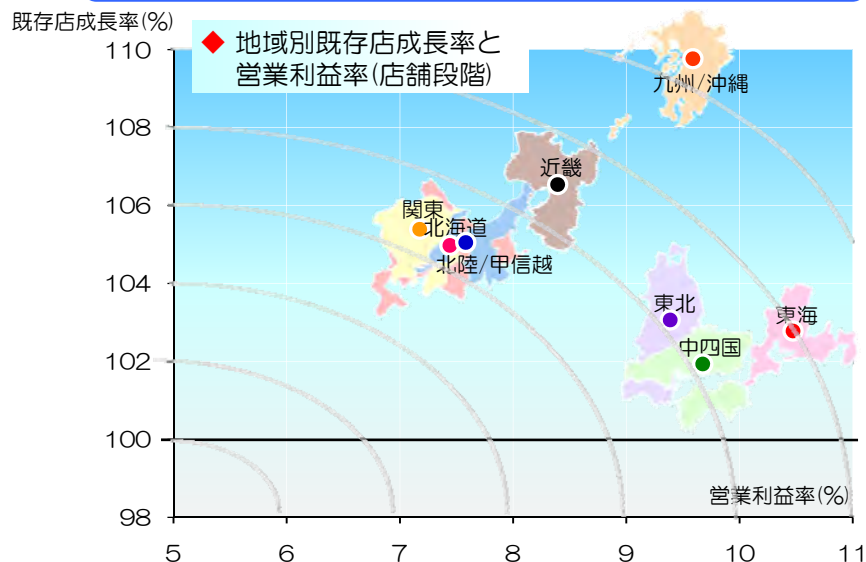
- ✓ 多様なロケーション&サイズの物件に出店可能
- ✓ 小売他社 大量閉店時代に千載一遇の大チャンス到来
- ✓ 「フレキシビリティ」と「スピード」そして「ロスカット」

カタリストを語る！

✓ 高成長と収益拡大が続くMEGA業態は次世代のパワーリテラー！

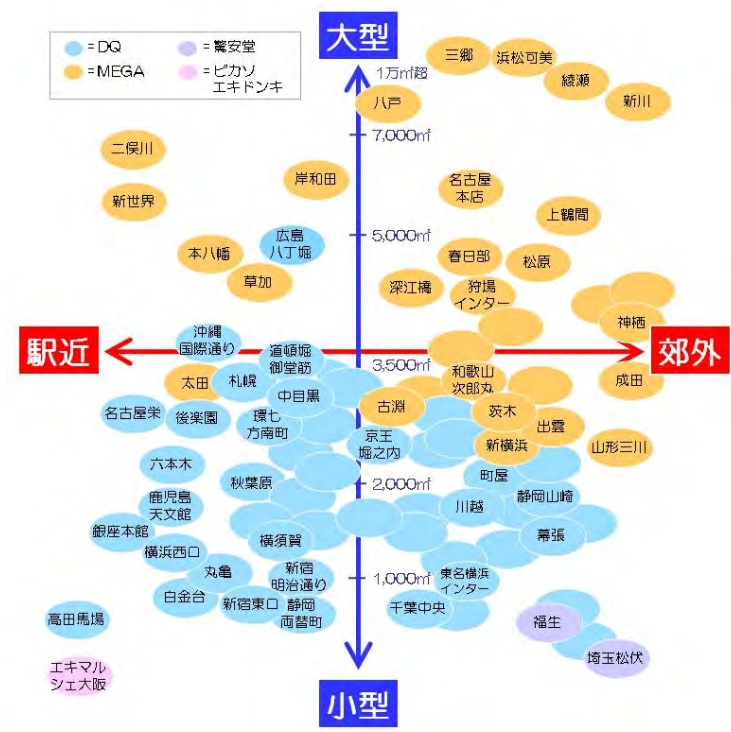


✓ 非食品の集客力と現場主義の徹底追及で地方展開も優位に進行中！



✓ 多彩なバリエーションを持った店舗開発は強い追い風で、さらに疾走！

◆ タイプ別 店舗マップ



ビジョン2020と当期の施策

ドンキホーテ HLDGS

— ビジョン2020 —

1. 売上高 1兆円
2. 店舗数 500店
3. ROE 15.0%

— 2016年6月期施策 —

お客さま満足の最大化を追求しながら、継続的な成長と安定を目指す！

1. 営業方針：

- ・ 商圏内競争を勝ち上がり、収益力拡大とブランド力の底上げを図る
- ・ 素早く柔軟な体制強化のため、いっそう狭くて深い権限委譲を徹底
- ・ インバウンド消費の需要創造と獲得

2. 商品戦略：

- ・ 付加価値の高いディスカウント体制の一層の強化
- ・ 深くスピード感のあるMD立案と実行
- ・ 生活必需品の品揃え強化と徹底したEDLPの推進

3. 店舗戦略：

- ・ 設備投資額400億円
- ・ 新規出店35店、DQ・MEGA店とも個店力を強化、小商圏店の実験促進
- ・ DQ既存店売上高予想：上半期＝＋5.3%、下半期＝±0.0%、通期＝＋2.7%

4. 人事戦略（雇用改定5ヵ年計画の推進）：

- ・ 多様性を認める企業文化を堅持
- ・ 多様な雇用形態の創出
- ・ ライフワークバランスの実現

5. 財務戦略：

- ・ 資金効率及び収益力を高めてバランスシートを改善
- ・ デットによる資金調達を優先し、エクイティ調達は予定無し
- ・ 年間配当金予想＝20円00銭
(2Q末5円実施済、前期まで12期連続増配継続中！)

通期の連結業績予想

ドンキホーテ HLDGS

(単位：百万円)



	通期修正予想			当初予想		前期実績	
	金額	百分比	前期比	金額	百分比	金額	百分比
売上高	750,000	100.0%	109.7%	730,000	100.0%	683,981	100.0%
売上総利益	200,000	26.7%	110.0%	196,800	27.0%	181,741	26.6%
販管費	159,000	21.2%	111.5%	157,000	21.5%	142,638	20.9%
営業利益	41,000	5.5%	104.9%	39,800	5.5%	39,103	5.7%
経常利益	41,500	5.5%	103.3%	40,800	5.6%	40,160	5.9%
当期純利益	23,400	3.1%	101.1%	23,300	3.2%	23,148	3.4%
1株当たり純利益	148.00円	—	100.7%	147.55円	—	※1 147.09円	—
設備投資額	40,000	—	133.7%	40,000	—	52,727	—
減価償却費	12,800	1.7%	109.7%	12,800	1.8%	11,672	1.7%

※1. 2015年7月1日付で実施した株式分割（1：2）が期首に行われたと仮定して算定しております。

「顧客最優先主義」と「企業価値の拡大」を追求し、
ディスカウント体制の一層の強化を進めながら、
引き続き増収増益決算を目指します。

上場子会社決算業績概況

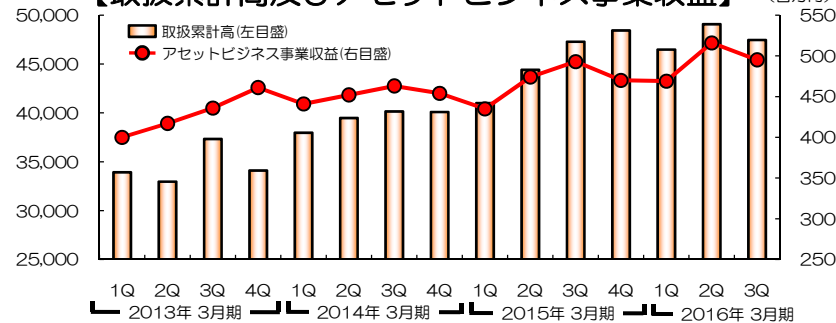
ドンキホーテ HLDGS

＜アクリーティブ：8423＞

(単位：百万円)

【PL概況】	当3Q (15年4月1日～12月31日)			前3Q (14年4月1日～12月31日)	
	金額	百分比	前期比	金額	百分比
取扱累計高	143,020	—	—	132,685	—
営業収益	3,063	100.0%	125.1%	2,448	100.0%
アセット ビジネス事業	1,480	48.3%	108.4%	1,366	55.8%
ソリューション事業	955	31.2%	109.1%	876	35.8%
その他事業	628	20.5%	303.5%	206	8.4%
金融費用	116	3.8%	93.7%	124	5.1%
販売管理費	1,538	50.2%	125.0%	1,231	50.3%
営業利益	1,408	46.0%	128.8%	1,093	44.7%
経常利益	1,421	46.4%	125.6%	1,132	46.2%
当期純利益	1,184	38.7%	118.5%	999	40.8%

【取扱累計高及びアセットビジネス事業収益】



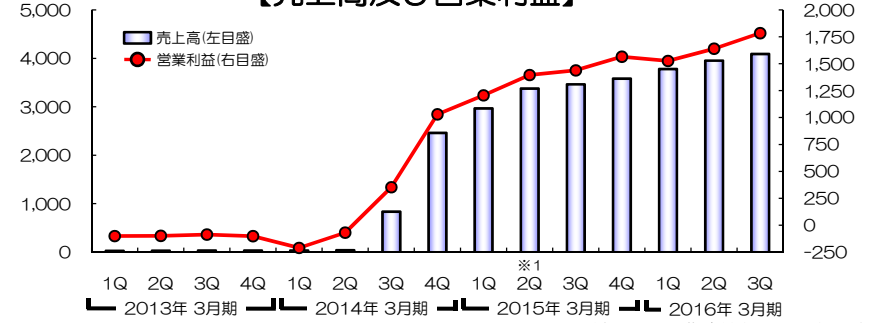
【BS概況】	当3Q末		前期末	
	金額	増減	金額	
総資産	21,013	118	20,895	
負債	14,515	▲951	15,466	
純資産	6,498	1,069	5,429	

＜日本アセットマーケティング：8922＞

(単位：百万円)

【PL概況】	当3Q (15年4月1日～12月31日)			前3Q (14年4月1日～12月31日)	
	金額	百分比	前期比	金額	百分比
売上高	11,823	100.0%	120.6%	9,807	100.0%
売上総利益	5,157	43.6%	120.8%	4,269	43.5%
販売管理費	207	1.8%	90.0%	230	2.3%
営業利益	4,949	41.9%	122.5%	4,039	41.2%
経常利益	4,561	38.6%	135.3%	3,372	34.4%
当期純利益	4,006	33.9%	138.0%	2,902	29.6%

【売上高及び営業利益】



※1. 前2Qより非連結となっております。

【BS概況】	当3Q末		前期末	
	金額	増減	金額	
総資産	103,029	9,929	93,100	
負債	91,163	5,922	85,241	
純資産	11,865	4,007	7,858	

本日はありがとうございました。

ドンキホーテ HLDGS

IRに関するお問い合わせ先

株式会社ドンキホーテホールディングス IR部

〒153-0042 東京都目黒区青葉台2-19-10

TEL：03-5725-7588 FAX：03-5725-7024

e-mail：ir@donki.co.jp

IRカレンダー

第36期（2016年6月期）第3四半期決算発表（予定）

決算発表日：2016年5月9日（月）

説明会会場：ステーションコンファレンス東京（東京都千代田区丸の内1-7-12 サピアタワー）

将来見通しに関する注意事項

本資料におきましては、投資家の皆さまへの情報提供のみを目的としたものであり、売買の勧誘を目的としたものではありません。本資料における将来予想に関する記述につきましては、目標や予測に基づいており、確約や保証を与えるものではありません。また、将来に関する記述につきましても、信頼できると思われる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、安全性を保証するものではありません。本資料は、投資家の皆さまがいかなる目的にご利用される場合においても、お客さまご自身の判断と責任においてご利用されることを前提にご提示させていただくものであり、当社はいかなる場合においてもその責任を負いません。

ドン.キホーテ HLDGS